



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2007年11月26日

No. 16

『一歩一歩進もう』

～Let's Move Forward Step by Step～
東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T



平成 19 年 11 月 5 日
卓話 『60 歳から家を建てる』
建築家
天野 彰 様



皆さんこんにちは。実はこの本が先月の20日に出版して、何でいまさら60歳から家を建てるのというタイトルです。これは私自身住まいを何年かやっております、やはり家族が中心になってないんですね。なんかどんどん物になっていく。マンションなんかもうあの事件の通り1戸いくらでどれだけ儲かるという世の中になってしまって、そんなときに本当に自分の家を建てているかという疑問がこの本の中心です。60になると自分自身その家と違和感を感じるんじゃないか。そんな時、もう一回家を見直してみようよ。そうすると夫婦を見直す、家族を見直すことになって自分の未来が見えてくる。画面に時計が見えております。80が頂点になって真下が40です。これは皆さんの胸にある時計です。これで住まいを見ますと、まず25あたり、そして女性でいうと55あたり、そして70というところに大きな節目があるんじゃないか。25というのは、つまり女性の当時の結婚年齢ですね。女偏に家が付くということですね。ここから初めて家と女性との関わり、家族とのかわりが出てくる。これまでは家がないうまがよかったわけで女偏に良しと書く。

この時計、なんで書いたかという、人生、今、女性85ですよ。そういう人がこのあたりで家を建てたり買ったりする。住まいは3度建てないと自分にあったものにならないというのを証明してるんですね。45からの15年間、55の15年間。そしてさらに70までの15年間、これはね、全部家のニーズが違ふんです。まず保育型です。ちょっと飛ばしてこれは養老型と。ですから家のプランも形も生活スタイルも全部違うのに子育ての家にそのまま住んでいらっしやる。それで子供たちが出て行っちゃうと、まさに空き巣になるんです。日本全体がそういう状態になっている。と

いうことで60歳から家を建てるよりは、要するに家をちょっと改装してみようよ。そして40の人は、もう40ではなくて、まだまだこんなに家を楽しみ人生を楽しまなくちゃいけないんだという家になっているかということ、この15年間は楽しみの家なんです。もっと言えば社交です。で、ここから先は養老ですが、でもこれ養老じゃないんです。今は養若です。何故かという、ここからさらに向こうに行くかどうかということが起こるかという、老後なんていっちゃ駄目ですよ。今日皆さん約束してくださいよ。老後っていうのは最後の最後にくるやつ。最初は老前ですね、老いる前。ちょっと足腰来たかなという人は老中。でいよいよ駄目だなというときに老後といってください。



私、19歳のときにある失敗しまして、設計した家の南に向けた屋根が台風で飛ばされました。若気の至りというか。で考え方が変わりました。これはセルフディフェンスをしなきゃいけないぞ。地震も火事も全部強いものにしよう。風が吹いてきたら沈む、天気の日はぐるぐる回って、日当たりよくしようなんて、それを本当にやろうと思ってます。

なぜ今頃60歳から家を建てるか、それはこれから余生があるからでしょ。だったら健康でそしてお金もちゃんと入る、そういう家に変えたらと。まあそんなことからリフォームブームが来ました。とにかくお金かけるなというのがリフォームの考えです。